

都市銀行と地域金融市場との関係性の分析 - 地域金融機関への効果について -

一橋大学大学院 長瀬毅

本稿では、都市銀行などの大規模かつ全国的な資金ネットワークを持った業態の金融機関が地域金融機関に対してもたらす効果について計測する。1980年代から都市銀行が中小企業への融資比率を高めたが、それによって限られた地域内の中小企業を顧客とする地域金融機関との競争が促進されたか、あるいは競争環境の変化によって地域金融機関の効率性が向上したか、さらには中小企業金融を巡る金融逼迫が改善されたか等の問題については明らかにされていない。また、90年代以降についても明らかでない。

本稿では都市銀行、地方銀行、第2地方銀行（旧相互銀行）、信用金庫の4業態の金融機関を対象とする。業態別に貸出の推移と相関を見ると、1980年代後半以降、都市銀行の貸出の推移およびシェアと他業態、特に比較的営業規模の小さい第2地銀と信用金庫のそれとが負の相関関係にあり、都市銀行の参入がこの2業態が大きな影響を与えたという仮説が示唆される。しかし、これまでの研究蓄積において、地域貸出市場における地域ごと及び業態ごとのセグメントが指摘されており、特に業態の規模が小さいほどセグメントの傾向が強まるといわれており、このことと先の仮説は整合的ではない。

この点を解明するため、まず地域ごとに上記効果を検定しなおすと、特に90年代以降、信用金庫が各地域で貸出およびシェアを増大させているのに対し、他業態は軒並み減少しており、しかもこの傾向は大都市および地方の双方で観察され、特定の地域性は見出し難い。このことは貸出市場のセグメントの要因として、地域性以外の要因の存在を示唆している。本稿では地域金融機関の顧客層が所属する産業の変化、および地域金融機関の貸出金利および様々な経営指標の変化と、都市銀行の地域金融市場へのアクセス（各地域ごとの都市銀行の貸出額）との相関を分析する（作業中）。